

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4592000089		
法人名	株式会社 耕智		
事業所名	グループホームこころみ		
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北16975番地3		
自己評価作成日	平成28年10月13日	評価結果市町村受理日	平成29年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanistrue&amp;jiyosyoCd=4592000089-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanistrue&amp;jiyosyoCd=4592000089-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成28年11月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・地域にとって必要とされる事業所づくりに努力している  
 ・利用者様お一人お一人を自分の家族と思いいその人らしさを大切にし安心して穏やかな生活が送れるよう笑顔と思いやりを大切にしている。  
 ・地域とのつながりを大切にし、利用者様の暮らしやすい環境づくりに努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

敷地内にグループホームと小規模多機能施設が併設されており、双方の利用者、職員が地域交流を行っている。管理者は看護師の資格を有しており、介護や職員育成に力を注いでいる。運営推進会議では、毎回様々な意見が出され討議を行っている。降雨時に玄関前が濡れて滑りやすくなるとの意見があり、長尺屋根の取り付け工事へとつなげている。地域住民との交流も大切にしており、理念に掲げ、互いに助け合える関係を築き、専門知識を有したホームが地域の中心的存在になるよう取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえたうえで事業所の理念を掲げ管理者と職員は共有している。	理念を掲示することや定期的に話し合うことで、常に自覚につながるようになっている。利用者は家族の一員であるとの思いを管理者と職員が共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入しており行事や地域の会議等に参加している。近所の理容室やコンビニを利用し認知症についての情報の発信もできる。	地域の保育園児や住民がボランティアで来訪している。また、近隣の緊急事態時には、ホームの力量を生かし、職員が的確に指示をするなど、互いに支え合う関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者やサービスの実際評価への取り組み状況について報告や話し合いを行い意見をサービス向上に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており行事報告利用状況について報告を行い意見交換を行いケアホームとグループホームの違いや認知症についての話し合いを行っている。	会議では毎回意見交換が活発に行われている。運営に対しての厳しい指摘や意見が出されることもあるが、管理者はホームの活性化の言葉と受け止め、全員で対策や改善についての話し合いを行い、資質向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携を密にして相談等も気軽にできるような関係作りに取り組んでいる。	運営推進会議に町の担当者が毎回出席し、意見や情報を提供してもらっているが、ホームから連絡や相談等が気軽にできるような関係性が十分構築されているとはいえない。	ホームの様子や状況を伝えるためにも、積極的に向く機会を持ち、困りごとなどいつでも相談できるよう、担当者との協力関係を構築することを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を行ったりその都度説明を行い拘束のないケアに取り組んでいる。	研修会等で拘束の弊害について理解を深めている。帰宅願望のある利用者にも行動を束縛することはせず、職員が連携し、見守り支援を行っている。不適切な言葉かけがあれば、管理者はその時に注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は研修会に参加して虐待が見過ごされることのないよう指導や管理を行っている。		

宮崎県都農町 グループホームこころみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会に参加しているが制度の利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問等を尋ね納得が得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望は早急に対応できるように心がけている。	運営推進会議に家族会の会長が出席し、建設的な意見や要望が出されている。また、生活の様子を知りたいとの要望をうけて、日々の様子を細かく記録し、報告することで、家族との信頼関係も構築している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は問題点や意見は早急に対応できるように取り組んでいる。	管理者は、職員の研修会参加や資格取得に向けての勉強会を開催するなど、人材育成に力を入れている。職員は要望や提案があれば企画書を作成し、管理者を中心に検討を重ね、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境面がまだまだできていない所が多いのですが、できる事から一つずつ対応していくようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修やグループ法人と共有できる研修の場を設けている。また学校等に通う職員は優先的に休みを学校予定に合わせ、学費等の相談にも応じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員数が少ない時期にはできない事もあるが、機会がある度に勉強会や交流の場を設けグループ法人間で職員だけでなく利用者も共に交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたり本人の困りごと・家族の不安・要望を聞き取り安心して利用できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族の不安、要望に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関との連携が必要な方が多いため面接時には必要な支援を明確にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を大切にしながら個別ケアに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の促しや外出の機会を設けることができるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	プライドを傷つけることのないように面談時はさりげない仲介や発言に配慮している。	友人や知人が来訪した時は利用者と共に全員で歓迎し、ゆっくりくつろいでもらえるよう配慮している。外出時に、地域住民との会話の中から思い出話を聞くなどして、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	対人交流やトラブルの仲介等をしながらお互い様になれるような関係性作りに配慮している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係性を大切にしている。イベントへの声かけや地域での交流に参加したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に本人、及び家族の意向を確認しながら意に沿えるような計画作成を行っている。	家族や知人からの情報により、本人の生活歴や性格等を把握している。自分で意思を発信できる利用者もいるが、困難な場合は表情や仕草から思いの把握に努め、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、過去の職業や趣味の把握を行いケア時やコミュニケーションをとる際の話題として役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの入居者の性格、個性を把握するとともにアセスメントを行いADLを明確にさせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の開催月には必ず対象者のカンファレンスをスタッフ参加で行いケアの状況やサービス内容の検討を行いプランに役立てている。また毎月の担当評価を元にモニタリングを実施している。	担当職員を中心に毎月カンファレンスを行っている。利用者が何を求めているのか、問題の原因は何なのか、本人や家族の意向を聞きながら、本人本位の計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフからの情報は詳細に支援経過記録に記載し3か月評価、6か月評価を実施して必要な際は介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の対応は基本的に家族が行うが施設生活におけるバイタル値、生活状況等の情報提供をDrに行っている。また必要の際は施設長や看護スタッフが帯同し詳細な医療的な情報を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校、保育園との交流が活発であり小学校からはプランターに植えた花々を施設に置いて頂いたり保育園の園児さん達は月に2回のペースで行事に応じて来設して下さっている。また地域のボランティア団体の来設も多く入居者は楽しめる機会が多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ノートや手紙でグループホームでの生活状況の報告をし急変時は同行し医師への報告、相談を行い指示を伺っている。	受診は原則家族対応としているため、個々の状況を記したノートを活用し、担当医との連携に努めている。利用者の状態によっては管理者が同行することもある。急変時のマニュアルを作成し、医療機関との連携も図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診を行い主治医の診断を受けている。定期受診以外でも体調不良は初期に気づくようケアスタッフとの報、連、相に努め早めの受診へ努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに訪問し医師、看護師との情報、連絡、相談を行い利用者様ご家族様が安心して帰ってこられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変や終末期予測される利用者様には主治医より家族様に予測されるリスクに対しての説明をしていただきスタッフも共有を行っている。	管理者は看護師の資格を持ち、状態に応じてホームでできることを家族との話し合いの中で伝えている。終末期に向けては、かかりつけ医から家族に話をしてもらい、方針の共有に努めている。ホームでの看取り支援も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会等を行い急変時、看護師にすぐに連絡するよう体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の防災訓練は予定しているも、課題も多く残されている。	年1回は消防に来てもらい、夜間訓練も実施している。しかし近隣住民への協力依頼をしておらず、関係者だけの訓練となっている。	地域に向けて様々な情報発信を行い、避難所としての活用法や災害時の協力体制作りへの取組、また、火災以外の防災訓練の実施を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し言葉かけや対応を行っている。	管理者と職員は、利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、言葉掛けには特に気をつけて対応している。利用者が家事等の手伝いをした時には、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望にはできるだけ応じている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った支援を利用者様と一緒に考えて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容室を利用していただく。家族様に協力していただき季節に合わせた服装ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはちらし寿司、ケーキなどを提供している。片付けができる方には進んで手伝いをして頂く。常食の難しい方には刻みトロミを付け寄り添いながら様子を見ながら食事をして頂いている。外出のできる方は外で食事をしたり施設内の庭で家族の方、スタッフと一緒に食事をして皆様が食べたい物を提供している。	家族や本人から好みを聞き、献立に取り入れている。昼食は小規模多機能事業所の利用者と同じ食堂でテーブルにつき、職員も見守りながら、一緒に食べている。間違い事故防止のため、配膳盆に個々の名前と形態を記した食札を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、昼、夕、10時、15時に水分を取って頂き誤嚥のある方にはトロミをつけ、チェック表も行っている。水分摂取の少ない方には水分の大切さを説明してできるだけ取って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のブラッシングを行っている。個々の能力に合わせ声かけ、見守り介助を行う。義歯は夕食後預かり週1回、専用の洗浄剤での洗浄をおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を活用し一人ひとりの状況に合わせた声かけや指導を行いトイレでの排泄ができるよう支援している。	一人ひとりの排せつパターンを職員で共有し、トイレでの排せつを支援している。パットの使用も状態に応じて使い分けしている。夜間対応時は、ポータブルトイレの使用となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、適度な運動、食物繊維の摂取状況等を、一人ひとりの状態に合わせて検討し便秘予防に取り組んでいる。看護師との連携を密にし対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に6回利用者様に合わせて無理のないように配慮して日程を組んであります。声かけ入浴で個人に差はあるが楽しんで入浴されていると思う。	毎日の入浴支援は行っているが、個々に隔日支援となっている。入居前からの習慣で昼間には入らないと言う利用者には夜間の入浴支援を行うなど、希望に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団干し、シーツ交換等気を使っている。日中休息したいときはすぐに眠れるように寝具支援をしている。居室の空気の入れ替えも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み間違いのないように日付、名前の確認を怠らない。飲み終わるまで確認する。量の多いときは2回ぐらいに分けて服用する。薬の目的がわからないときは再度薬の用途を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの職歴や家族構成を把握して日常生活の会話が楽しくなるようにしている。		



宮崎県都農町 グループホームこころみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の人々にもっと当施設を知っていただくためにも地域周辺を散歩しコミュニケーションを図っています。	利用者の希望を聞き、自宅近辺や昔の街並みが残る地域へドライブを兼ねて出掛けている。希望には個別に対応している。また、天気や気候に合わせ、ホーム近辺を散歩したり、家族と食事に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は本人がしており本人の希望通り支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話されるときは支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に整理整頓を行い不快な気持ちにならないようにしています。	共用空間はゆったりとしており、利用者も安全に動くことができる。台所の天井は高く、明かり取りの窓があり、空調も兼ねており、快適に過ごせるよう配慮している。感染症予防のため、毎日全ての手すりや扉などを消毒しており、また、コーナーごとに数台の加湿器を稼働している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で居場所の工夫をして会話が楽しめるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の写真をかざったり花を置いたりして利用者様が心地よく過ごせるようにしている。	利用者の使い慣れた家具等を持ち込んでもらい、自宅と違和感のない環境で暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様、自ら食器を洗ったり、トイレの場所なども分かりやすくなっているので車椅子で自走して行かれている。		